平成25年9月20日
（11月11日更新）

台湾における狂犬病の発生について

農林水産省　消費･安全局
動物衛生課

1. 経緯

① 台湾当局は昨年（2012年）から野生動物の疾病モニタリングを開始（台湾大学等に委託）。

② 本年（2013年）から狂犬病をモニタリング項目に追加。

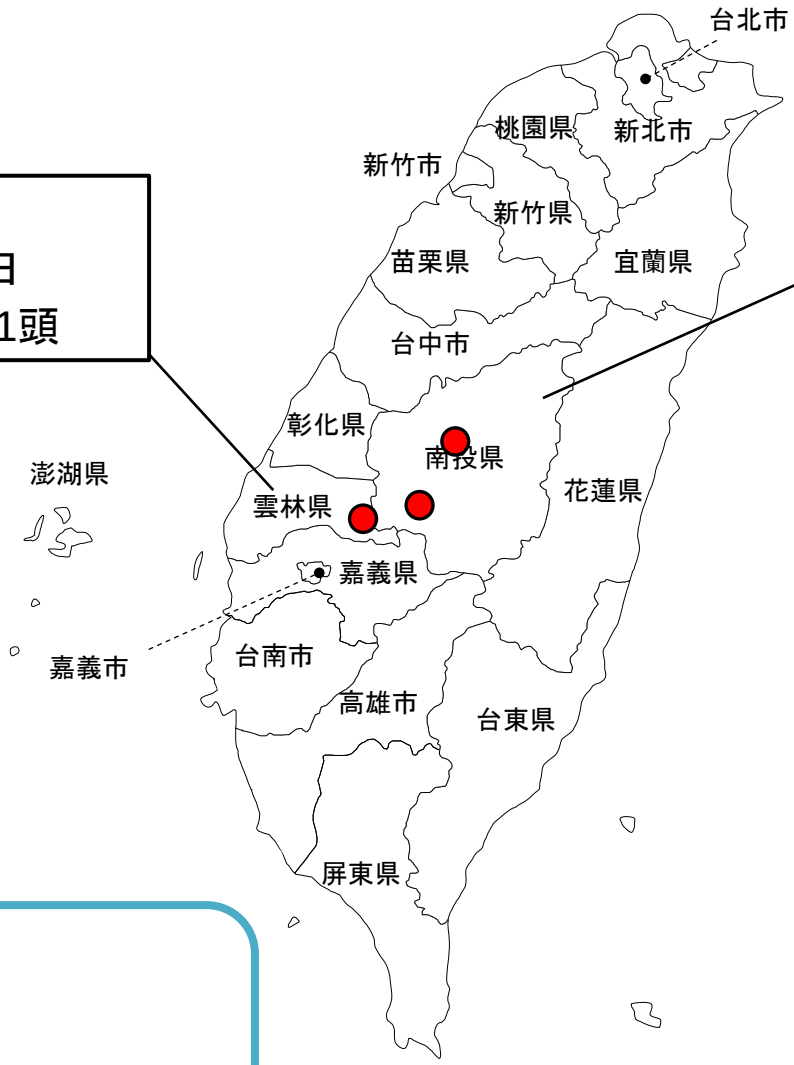
③ 昨年回収されていた死亡原因不明の3頭の野生イタチアナグマについて、本年6月に狂犬病のRT-PCR検査を実施したところ、陽性。

④ OIEが推奨する新鮮脳材料を用いた直接蛍光抗体検査での診断ができなかったが、国立研究所にて実施した免疫組織化学（IHC）、RT-PCR、直接蛍光抗体検査（FAT）等の検査の結果、全てにおいて陽性が確認できたため、7月16日に専門家会議により狂犬病と確定診断（OIEへ報告）。

2. 台湾における狂犬病の発生状況（緊急報告）

雲林県
2012年 11月25日
イタチアナグマ: 1頭

南投県
2012年 5月23日
2012年12月29日
イタチアナグマ: 2頭



発生頭数の合計
イタチアナグマ:　3頭

（2013年 7月19日付け緊急報告）

出典:OIE WAHID
台湾行政院中央流行疫情指揮センター

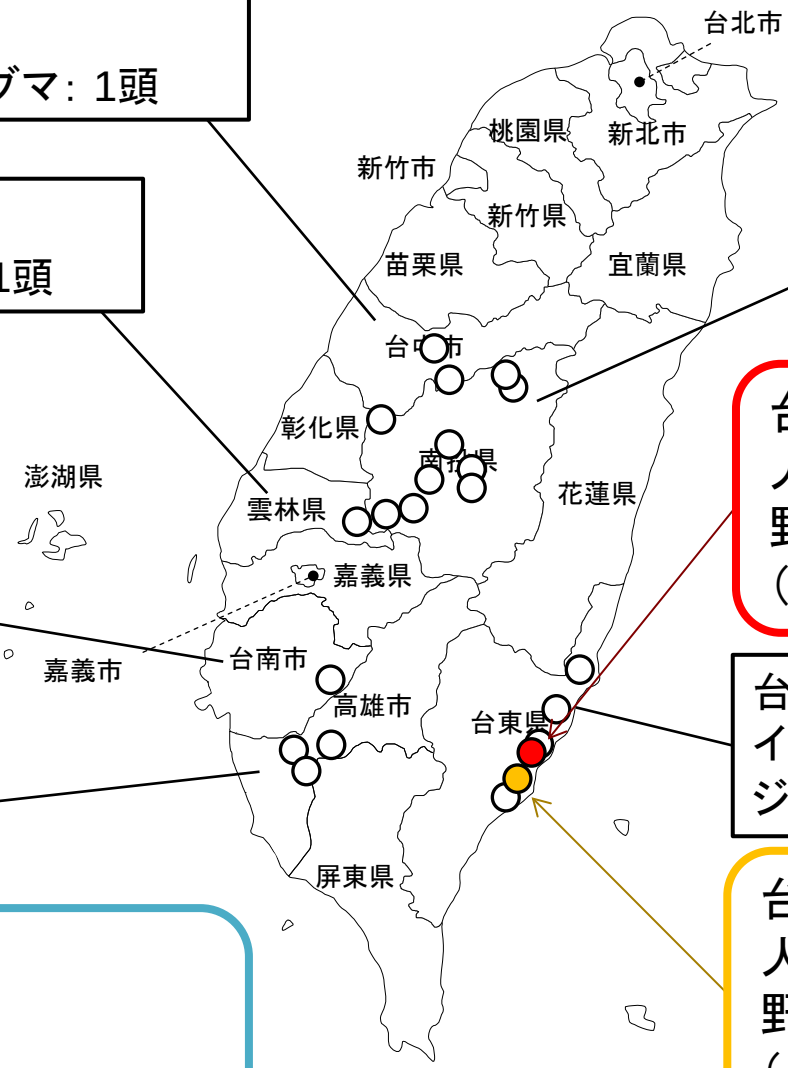
3. 台湾における狂犬病の発生状況（人へ咬傷・ジャコウネズミ）

台中市
イタチアナグマ：1頭

雲林県
イタチアナグマ：1頭

台南市
イタチアナグマ：1頭

高雄市
イタチアナグマ：3頭



南投県
イタチアナグマ：10頭

台東県で民家に侵入し
人に咬傷を与えた
野生イタチアナグマ
（人は暴露後免疫接種）

台東県
イタチアナグマ：5頭
ジャコウネズミ：1頭

台東県で民家に侵入し
人と接触した（傷なし）
野生ジャコウネズミ
（人の暴露後免疫不明）

発生頭数の合計
イタチアナグマ：　21頭
ジャコウネズミ：　1頭
（2013年 8月 1日付け続報 4まで）

出典：OIE WAHID
台湾行政院中央流行疫情指揮センター

4. 過去の検証（2010年からの発生確認）と犬での確定診断例

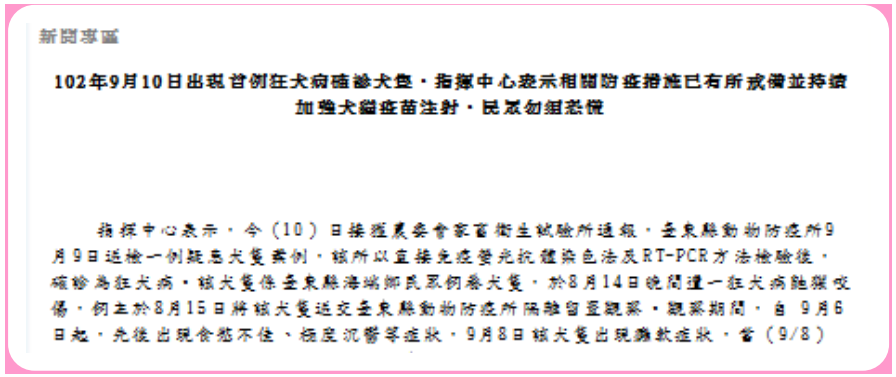
過去の検証（2010年からの発生確認）

- 2010年7月～2013年7月に回収された13頭のイタチアナグマ保存材料を検査、5頭で陽性。
- 最も早い回収日は2010年7月17日（南投県）。
- 台湾当局はOIEに対して、発生開始日の訂正（2012年5月23日→2010年7月17日）を報告したが、OIEからは訂正は不要と返答。

犬での確定診断例

- 2013年8月14日に狂犬病感染イタチアナグマから咬傷を受けた犬（台東県）が、9月6日に発症。
- 安楽死措置後、狂犬病と確定診断。
- 当該犬は狂犬病ワクチン未接種の子犬（45日齢で、8月15日以降台湾当局の監視下に置かれていた。
- 臨床所見：食欲不振、麻痺。

台湾行政院中央流行疫情指揮センターウェブサイト（2013年9月6日付け）



台湾行政院中央流行疫情指揮センターウェブサイト（2013年9月10日付け）

5. 台湾における狂犬病の発生状況（続報39まで）

●：続報39における発生報告
☆○：以前の発生報告
（OIEの発生数に含まれる）
（☆は犬での発生）
△：以前の発生報告
（OIEの発生数に含まれていない）

台中市
イタチアナグマ：27頭

雲林県
イタチアナグマ：12頭

嘉義県
イタチアナグマ：13頭

台南市
イタチアナグマ：17頭

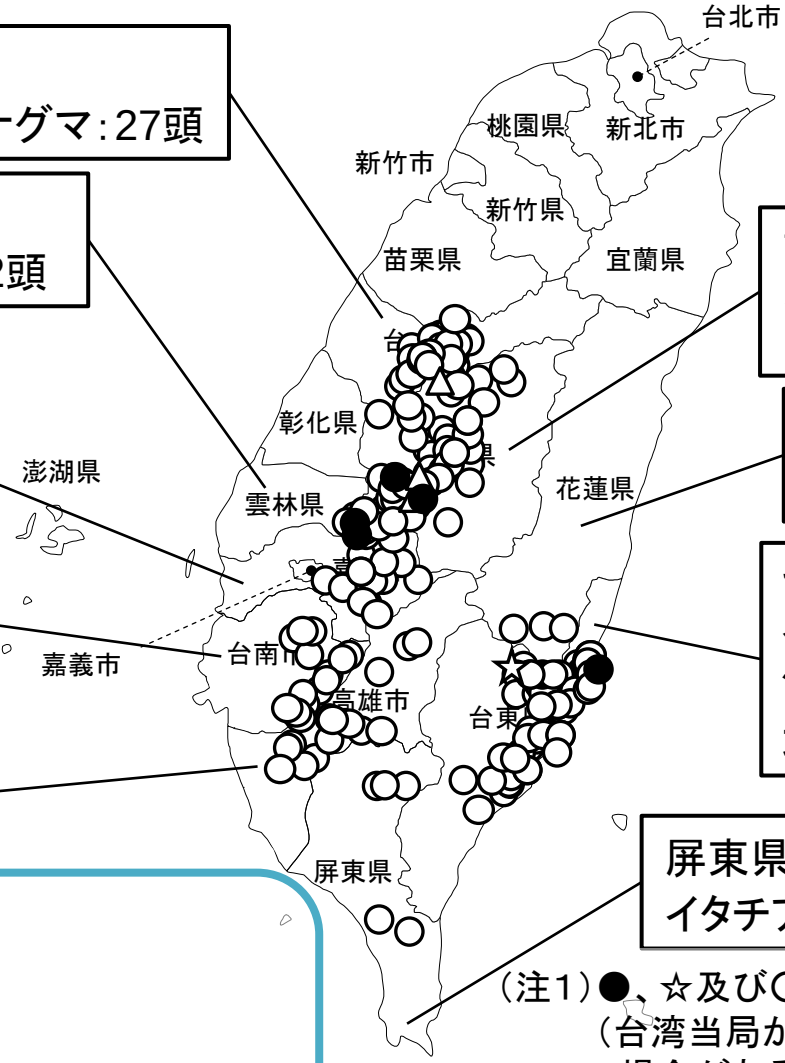
高雄市
イタチアナグマ：14頭

南投県
イタチアナグマ：51頭
（うち3頭はOIEの発生数に含まれていない）

花蓮県
イタチアナグマ：3頭

台東県
イタチアナグマ：72頭
ジャコウネズミ：1頭
犬：1頭

屏東県
イタチアナグマ：6頭



発生頭数の合計
イタチアナグマ：215頭＊
ジャコウネズミ：　1頭
犬　：　1頭
（2013年 11月6日付け続報39まで）
＊：うち3頭はOIEの発生数に含まれていない

（注1）●、☆及び○で示される発生地点はOIE報告に基づく。
（台湾当局が公表している地図とは一致していない場合がある。）
（注2）△で示される発生地点は台湾当局の発表に基づく。

出典：OIE WAHID
台湾行政院中央流行疫情指揮センター

6. 発生した野生動物

注意：写真は著作者の同意を得て使用しています。
本スライドの複写・転載・二次利用等はできません。

中国イタチアナグマ
（Chinese Ferret-badger）

台湾名：鼬 獾
分類：食肉目イタチ科アナグマ亜科
イタチアナグマ属
学名：*Melogale moschata subaurantiaca*
体長35-40cm　尾長14-20cm　体重1-1.7kg
特徴：雑食、夜行性

写真：台北市立動物園　詹德川氏攝影提供

ジャコウネズミ
（Asian House Shrew）

台湾名：錢 鼠
分類：トガリネズミ目トガリネズミ科
ジャコウネズミ属
学名：*Suncus murinus*
体長12-16cm　尾長6-8cm　体重30-80g
特徴：分泌腺（ジャコウ腺）を有する

写真：台湾行政院農業委員會提供

7. 台湾における人の暴露後ワクチン接種対象

2013年7月31日付け

暴露原因となった動物	接種の提案	備考
野生ほ乳類動物（ジャコウネズミを含む）	直ちに医師の診察を受け、ワクチン接種を受ける。	検査結果が陰性の場合、ワクチン接種を停止できる。
野良犬・猫	直ちに医師の診察を受け、ワクチン接種を受ける。	野良犬・猫を観察し10日間無症状であれば、ワクチン接種を停止できる。
家犬・猫	しばらくワクチンを投与しない。	家犬・猫を観察し10日以内に狂犬病を疑う症状が出現し、動物の検査機関が高度に疑った場合、直ちにワクチンを接種する。

★暴露の定義：動物から掻傷・咬傷、又は皮膚の傷口や粘膜が唾液等の分泌物と接触。

出典：台湾行政院衛生福利部疾病管制署（台湾CDC）

8. 農林水産省の対応

水際検疫

- 7月16日夜の台湾政府の公表を受け、7月17日より台湾を狂犬病の非清浄地域として取り扱った。
- 7月25日付けで指定地域（農林水産大臣が認める狂犬病の清浄国・地域）から削除。

情報収集・提供

- 台湾当局やOIEのウェブサイト等から迅速に関係情報を収集し、都道府県、厚生労働省等の関係機関に情報提供。
- 当省ウェブサイトで情報を配信。

（参考） 厚生労働省の対応

- 7月30日付けで感染症法上の指定地域から削除。
- 都道府県等の関係機関に情報提供。
- 厚生労働省ウェブサイトで情報を配信。
- 厚生労働省専門家の台湾への派遣。

▲ 農林水産省ウェブサイト
水際における狂犬病対策について